

広報2018

ちの
Chino City

ちの市議会だより



平成30年
No.891

9月号



防災特集 災害で犠牲にならないために ～その目は突然やってくる～

皆さん、9月1日は防災の日です。災害等もしもの時の備えは準備していますか。今月の特集では、災害が起きた時取るべき対応や、事前に確認してほしいことを掲載しました。いつ来るかわからない災害に備え、今できる準備をしましょう。



災害で犠牲にならないために ～その日は**突然**やってくる～

みんなの
お家は大丈夫？



平成23年の東日本大震災発生から7年半。その間にも、平成26年広島土砂災害、平成27年鬼怒川の氾濫、平成28年の熊本地震、平成29年九州北部豪雨、そして先日(平成30年)7月豪雨…。毎年多くの方が尊い命を亡くされています。明日は我が身かもしれません。災害で犠牲にならないために、最低限必要な備えを一緒に考えましょう。

災害で犠牲にならないためには、「災害は必ず起きる」という危機感を持っていただくことと、そのとき「自分と家族の生命は自分自身で守る」という意識が最も大切です。

かつては、多くの皆さんが、自然災害から生き延びること、家族を守ることが、当たり前のこととして、自らがやらなければならないと考えていました。しかし、近年の激甚化する災害では、個人でできる対策には限界があることから、公助(国、県、市、消防、警察、自衛隊など)の役割が年々大きくなってきました。茅野市としても、必要な対策を進めています。

ただし、災害は、その規模が大きくなればなるほど、対策が全ての皆さんに届くには、どうしても時間がかかります。また、それぞれの方が、行政がお届けする情報や対策を、積極的に受け取りに行く必要があります。例えば、避難勧告などの情報を、市では確実に出す必要があります。しかし、どんな情報を出しても、待っているだけではその情報が届かないかもしれません。情報を受け取る側にも、受け取るための努力が必要です。また、災害時には、ご近所同士の助け合いが欠かせません。

ただし、近年の激甚化する災害では、もはや個人の皆さん、自主防災組織、行政、防災関係機関が、それぞれ別々に動いていても、犠牲者をゼロにすることは困難です。これからは、自助、共助、公助が一体となって、地域社会として自然災害に立ち向かわなければなりません。

茅野市総合防災訓練に参加しましょう



今年度の茅野市総合防災訓練は、震度7の巨大地震が発生した場合を想定し、市内10地区を対象とした通信訓練、各地区の実情に合わせた初動訓練を実施します。また、市内の指定避難所の内、基本避難所(小中学校、八ヶ岳総合博物館、笹原保育園)を開設する、避難所開設訓練を実施します。激甚災害発生時に必要な活動を知っていただくため、地震発生直後の初期活動の訓練を、昨年度に引き続き行います。

■と き 9月2日(日) サイレン吹鳴 午前7時～

■ところ 市内一円

問 防災課 防災係(内線182)



災害に備えて確認すべきこと4選!!



地震に備えて 家の中の安全を確認しましょう

地震に備えて、「落下・転倒防止対策」「身の安全対策」を行うために、家の中の安全チェックを実施しましょう。

- ・ガラスには飛散防止フィルムを張りましょう。
- ・吊型電灯はソケット部分をテープで巻いて、固定しましょう。
- ・家具はその場所にあった固定用具を使って、正しく固定しましょう。
- ・冷蔵庫は倒れないように、金具などを使って固定しましょう。
- ・寝室や子ども部屋には家具を置かない。
- ・安全避難のための出入り口や通路にものを置かない。
- ・テレビ台の上のテレビには飛び出さないようにストッパーをつけましょう。



ブロック塀の撤去、補強等を支援します

先の大阪北部地震では、ブロック塀の倒壊により尊い二人の方の命が失われました。危険ブロック塀への対処は全国的な緊急課題となっています。茅野市においては補助金制度を創設し、市民のみなさんの危険ブロック塀の撤去、補強、建替えを積極的に支援します。内容は、状況に応じて費用の1/2～2/3を補助するものです。補助金の詳細は、都市計画課住宅建築係までお問い合わせください。

問 都市計画課 住宅建築係（内線537）

非常持ち出し品では命は救えない！ 本当に必要なものは何？

非常持ち出し用品は、避難生活を余儀なくされた場合の「避難便利グッズ」です。無いからといって命を落とすようなものではありません。ただし、毎日飲まなければならない薬など、どうしても用意しておくべきものがあります。『我が家にとって本当に必要なものは何か？』それぞれの家庭で考えましょう。目安は、「家族で3泊程度の登山をするときの装備」を最低限の基準として、置き場所、種類分け（すぐに持ち出すもの、備蓄品として保管するものなど）も工夫しましょう。また、非常持ち出し用品とは別に用意しておくべきものがあります。これまで国内で発生した災害の教訓から、被災地では『枕元3点セット』（懐中電灯、スリッパ、ホイッスル）を準備しています。これは、避難とは関係なく、家族分用意しましょう。



家族との連絡方法を確認

家族がバラバラになってしまった時、安否確認ができるように日頃から確認方法や集合場所などを決めておきましょう。災害時には携帯電話の回線が繋がりにくくなります。伝言サービスを利用しましょう。



平成29年九州北部豪雨、平成30年7月豪雨の被災地に学ぶ

近年発生している豪雨災害でも、犠牲者がゼロだった地域があります。こうした地域では、どのような避難をしたのでしょうか。

豪雨災害で犠牲にならないためには、「安全な場所」へ避難するしかありません。しかし、どこが「安全な場所」なのか、避難の方法、避難のタイミングは、住んでいる場所（予想される危険の種類と程度）によって異なります。とは言え、個人が避難の判断をすることは、非常に困難です。このため、犠牲者がゼロだった地域では、ご近所同士で話し合い、避難のタイミングと避難場所を決めてありました。その基準に従い、声を掛け合って避難した結果が犠牲者ゼロにつながっています。

茅野市でも、こうした被災地の教訓を参考に、犠牲者ゼロを目指しましょう。

**みんなで『逃げる』から、『逃げない』という人がいなくなる
みんなで『逃げる』から、『逃げられない』人のことが気にかかる**